

科目名 Course Name	国際関係論入門 International Relations						
年次	1年	期別	前期	単位数	2	授業形態	講義
担当者氏名	金井尊史						
連絡先(質問等)	講義棟 1 階講師室(金曜 1130~1430)						
必修/選択	選択						
関連 DP	DP1, DP5, DP6						
授業の概要と到達目標	現代の国際社会で必須である国際関係論の基礎を習得する。 ① 国家の構成要件、外交の基礎的知識、国際機構の基礎的知識を習得できるようにする。 ② ヨーロッパと日本の近現代史について基礎的知識を習得できるようにする。 ③ 安全保障、国際法や現代の東アジア情勢の基礎的知識を習得できるようにする。						
授業の方法	毎回配布するレジユメに基づき講義形式で進行する。						
学習成果	L01	問題の発見と根拠に基づいた論理的な思考で結論を導き出す事ができる。					
	L02						
	L03						
	L04	現代の国際社会で必須の知識・教養である近現代史の知識を習得し、議論する事ができる。					
課題に対するフィードバック							
教科書/参考図書	無し(レジユメを毎回配布する)						
履修上の留意点やルール等	課題意識を明確にして受講する事。遅刻、無断欠席厳禁。 事前・事後学習の目安時間:180分						
担当教員の実務経験							

成績評価の方法と基準					
評価の領域	評価基準	学習成果の割合			
		L01	L02	L03	L04
授業参加態度	教材を常に準備して受講している。 授業に集中してノートを取っている。 不明な点に関し積極的に質問している。	40			
レポート/作品					
発表					
小テスト					
試験	穴埋め問題 60 点(2 点×30 問)、記述問題(10 点×4 問)。 穴埋め問題:用語の正確な定義 記述問題:内容に間違いがない、適切な論理構成、正確な日本語文法、まとまった分量。 (記述問題は積極的に部分点を与えるので必ず回答すること。)				60
その他					
合 計		40			60

回数		授業計画
1	授業内容	ガイダンス
	事前・事後学習	ガイダンスの内容に基づき履修の決心を固める。
2	授業内容	国際関係論とは何か(研究領域と考え方)
	事前・事後学習	国際関係論の研究領域、各学派に関する予習・復習
3	授業内容	国家とは何か(国家の基礎理論・構成要件)
	事前・事後学習	国家の構成要件と権利・義務に関する予習・復習
4	授業内容	外交とは何か(外交の基礎的事項)
	事前・事後学習	外交の主体、手法、成果に関する予習・復習
5	授業内容	国際関係史(1)ヴェストファーレン体制の成立からナポレオン戦争まで
	事前・事後学習	ヴェストファーレン体制からナポレオン戦争までの経緯に関する予習・復習
6	授業内容	国際関係史(2)第二次世界大戦まで
	事前・事後学習	19世紀後半から第二次大戦開戦までの経緯に関する予習・復習
7	授業内容	国際関係史(3)第二次世界大戦終結から現在まで
	事前・事後学習	第二次大戦終戦から東西冷戦を経て現在に至るまでの経緯に関する予習・復習
8	授業内容	国際関係史の中の日本(1)幕末から大東亜戦争まで
	事前・事後学習	ペリー来航に伴う開国と大東亜戦争開戦までの経緯に関する予習・復習
9	授業内容	国際関係史の中の日本(2)大東亜戦争終結から現在まで
	事前・事後学習	大東亜戦争の経緯、および現在までの経緯に関する予習・復習
10	授業内容	中間試験(試験範囲:第2回～第9回)
	事前・事後学習	中間試験の準備、中間試験の結果に基づく苦手部分の復習
11	授業内容	安全保障とは何か・日本の安全保障
	事前・事後学習	安全保障の各種理論・体制と日本の安全保障体制に関する予習・復習
12	授業内容	国際機構と国際機関
	事前・事後学習	国際機構・国際機関のシステムに関する予習・復習
13	授業内容	国際法(平時・戦時国際法)
	事前・事後学習	戦時国際法の適用条件に関する予習・復習
14	授業内容	現代の国際情勢と問題点
	事前・事後学習	模擬試験に向けて試験範囲の復習。
15	授業内容	全体のまとめと試験の説明(模擬試験)
	事前・事後学習	模擬試験の結果に基づく試験の準備(試験範囲:第2回～第14回)。